

## 熊本地震の被災地、被災者に向けたご支援のお願い

### ~公益社団法人 CivicForce について~

このたび、熊本地震にて被災をされた皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。

余震が続く中で、被災された方のために何かできないかという思いは日本の皆様と同様に私の中に強く、寄付を集めるファンディングサイトである JapanGiving にて Civic Force への応援を開始いたしました。CivicForce と JapanGiving はこれまでの私の寄付活動の中で大きな位置を占めており、これらを通じて、少しでも被災された方々のお力になりたいと思っております。

この私の活動へのご協力を皆様にお願ひ申し上げるとともに、この場をお借りし、CivicForce 設立の経緯、私との関わり、活動の意義と重要性をご理解いただけることを願ひます。

#### 私と寄付活動との関わり

私は前から日本において「どうして余っているお金が必要とされるところに向かっていかないのか？」ということに強い問題意識を抱いておりました。

経済活動の中で余っている資金が必要とされるところに向かっていく。その資金が使われることによってまた新たな資金が生まれ必要などころに向かっていき、循環ができる。

まるで血液のように循環していないと資金はその使命を果たすことができないという信念があります。

この問題意識は単に営利的な活動の場だけではなく、非営利的な活動の場にも強く感じておりました。なぜ活動に対するニーズもあるにも関わらず、なかなか寄付が集まらないか？ なぜ素晴らしい思いを持った非営利団体に余っている資金が向かっていかないのか？ なんとか解決策はないものかと考えておりました。

そこで解決策を考えるにはまずは全国を巡って非営利活動を行う皆様の現場としてのご意見、問題点を聞かせていただくという活動を始めました。その中で出会ったのが、当時すでに日本を代表する NGO であるピースウィンズ・ジャパンの創設者であり代表の大西氏でした。

大西氏は、これまでの慣習や常識にとらわれず、ゴールに向かって、スピード感を持って挑戦するという、素晴らしい信念の持ち主です。なんとか日本に寄付文化を作りたい、一緒に問題を解決していこう、とお互い意気投合しました。

その後難しい時期でしたが、寄付文化が日本で根付くことを目的に 2006 年 NPO 法人チャリティー・プラットフォームの設立までこぎつき、非営利団体に精通している大西氏にはチャリティー・プラットフォームの理事をお願いすることとなりました。

チャリティー・プラットフォームの理事をお願いすることで、大西氏とはその後も議論を重ねることができました。数年置きに必ず大地震に見舞われるという日本の地政学的問題は二人に共通の大きな懸念でありました。日本のどこかで大地震が起きた時に真っ先に活動できるノウハウと構想のある大西氏に対して、私が資金的に援助をすることで、できる限り早く、大規模災害時の即応体制を築くことを約束しました。

#### CivicForce の設立

大規模な災害が起こったら家族はどうなるのだろう。誰がどうやって助けてくれるのだろうか。この不安は、みんなが抱えているに違いないと強く思ったのが CivicForce の設立のきっかけです。大西氏とはお互いの経験や知恵、想定を出し合い、何をどうすれば災害の多い日本においてより多くの方が安心して暮らすこ

とができ、何か起きてでも支援を受けることのできる体制を整えることができるのか、話し合いを続けました。まず、CivicForce の前身であった団体に対し 3 億円の寄付を行い、団体はその資金で災害時に使用するバルーンシェルターやテント等、支援に必要な物資を購入して静岡県の袋井市にて保管することとしました。また、物資を迅速に現地へ届けるため、民間のヘリコプター会社とも契約を結び、今回の熊本地震を含め、大規模災害時に、即、上空から被災の状況を確認して、すぐに必要なものを運ぶことができる体制を整えました。

その後、団体は CivicForce と名前を変え、災害支援にかかわるさまざまな組織の連携、ニーズに即した緊急即応がすぐに行えるように、「情報、人、資金、物資などのリソースを集約したプラットフォーム（土台）の役割」を果たすべく、様々な地方自治体、企業、行政との協力関係の構築にあたってきました。

2011 年 3 月 11 日

CivicForce の設立に関わった我々ですら全く予想もできない大震災が起こってしまいました。最初の大きな揺れののち、刻々と被害が拡大する中、CivicForce は翌日早朝にはヘリで上空から現地を視察し、最もニーズが高いと思われた気仙沼にてすぐに支援活動を開始しました。

私、及びチャリティ・プラットフォームは、ファンドレイズという側面から CivicForce を支援することを決定し、企業への物資、寄付などの支援の依頼を即日開始し、募金箱の無料貸し出しや、私自身が JustGiving（現在の JapanGiving）において寄付にかかる手数料を無料にする、さらに集まった寄付にマッチング寄付を行うなどの後方支援を実施しました。

CivicForce によって独自に集められた寄付も含めて、数か月で総額 9 億円の活動資金を得ることで、支援の拡大・充実がなされました。私自身も、被災地での炊き出しのお手伝いをさせていただきましたが、その現場において、CivicForce の活動、特に被災者の視点とニーズを十分の反映した緊急即応体制構築の重要性と必要性を感じました。

CivicForce の行った支援は、大変な毎日の中でも、多くの方々に笑顔を届けていたと感じています。現在でも、CivicForce は現地において幅広い視点から、様々な支援活動を行っていますが、これは、彼らの活動が現地、そして被災者に寄り添うものであったことの証だと思っています。

今回の熊本地震（CivicForce ホームページのニュースより）

4 月 14 日夜の地震発生後、翌日には CivicForce は、大西氏の率いるピースウィンズ・ジャパン（緊急支援）、ピースわんこ（救助犬派遣）などと共に緊急支援チームとして現地入りし、活動を開始しました。このチームは、2015 年 4 月のネパール地震、同年 9 月に台湾を直撃した台風による行方不明者捜索活動、同じく 9 月に発生した関東・東北大雨による茨城県常総市において孤立者支援活動などを経験しているチームであるとのこと。同日、現地において他団体とも連携しながら捜索活動を行いながら、ニーズ調査を実施しています。16 日に再度発生した地震での行方不明者の捜索活動にあたる一方で、ニーズに即した企業などからの物資の支援などを受け付け 17 日には 100 人以上を収容できるバルーンシェルターを袋井市から輸送して設置、18 日には同じく袋井市から緊急避難用テント 160 張を輸送、さらに 19 日には、震災後着替えることのできなかつた被災者の皆様のために、グンゼ株式会社からの肌着を 7000 枚と靴下 1000 足を輸送しています。

=====  
大西氏との出会いから今日まで、10 年近い歳月が流れておりますが、その間に、CivicForce という形を作り、起きてしまう大規模災害において確実に活動範囲と存在感を高め、より迅速でニーズに即した緊急即応

体制を構築された大西氏に多大なる敬意を払うとともに、今回の熊本地震につきまして、皆様にもぜひ、CivicForce へのご支援をお願い申し上げます。

私自身も、引き続き、周囲への呼びかけ等を含め、支援をさせていただこうと思っておりますので、私のJapangivingにおけるチャレンジページを通じてのご寄付もいただけましたら、大変嬉しく思います。

1日も早く、被災された皆様の暮らしが落ち着かれますように、心よりお祈り申し上げます。

2016年4月22日

村上 世彰